

令和4年度

事業計画書

社会福祉法人

神奈川県社会福祉事業団

目 次

はじめに	1
1 経営統括管理室	2
2 経営戦略室	3
3 総合経営センター	4
4 横須賀老人ホーム	5
5 横須賀養護老人ホーム	6
6 箱根老人ホーム	7
7 湘南老人ホーム	8
8 あしがら広域福祉センターひかりの里.....	9
9 高齢者グループホーム「輪」	10
10 介護付有料老人ホーム「結」	11
高齢施設利用者目標数	12
11 児童養護施設すまいる	13
12 あいせん保育園	14
13 かのん町保育園	15
14 新川崎みらいのそら保育園.....	16
15 みなみかせ保育園.....	17
16 屏風ヶ浦保育園	18
17 屏風ゆめの森保育園	19
18 みなみひの保育園	20
19 収益事業センター	21

はじめに

神奈川県社会福祉事業団は、コロナ禍でも安定したサービス提供ができるよう、感染症防止に最大の注意を払いながら、高齢福祉事業、保育児童事業の運営を進めて参りました。今年度も、感染症の状況を注視しながら適切な対応を実施していくとともに、収束後のあり方も見通しつつ、事業を展開していきます。

社会福祉法人としての社会的役割を果たすため、社会福祉法の趣旨である「経営組織のガバナンス（内部統制）の強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取組」をこれまで以上に図っていくとともに、経営理念である「人にやさしい豊かな心」「地域社会への貢献」「活力ある経営」の三本の柱のもと、総合経営計画（第4次）を着実に推進します。また、長期的な事業の継続を視野に、次期計画の策定に取り組みます。

雇用責任と社会福祉法人としての社会貢献を果たすべく、合目的的な観点に立った事業経営を推し進めていきます。

1 経営統括管理室

経営統括管理室は、当法人における福祉サービス提供が、関連法規に基づいた適切なものであるか、ご利用者の尊厳に配慮しているかなどを検証し、リスクマネジメント等の体制を強化しつつ、ご利用者の安全・安心を守る適切なサービスが提供できるよう、各施設と連携を図ります。

当法人の各種会議・委員会等でコンプライアンス体制の啓発を行うとともに、安全・安心会議を主催し、近年の大規模災害に備えうる防災対策や、虐待防止、ハラスメントへの取り組みを強化する等、ご利用者の安全、安心を守るとともに、職員の働きやすい環境を実現できるよう、必要な意識、知識、理解等を深めることに重点を置き、適切な施設経営が図れるよう積極的に取り組みます。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策で緊張が続く中、安定した経営を維持できるよう、組織の透明性を確保しガバナンス強化に取り組んで参ります。

○ 重点事項

- 1 法人経営のコンプライアンス体制の啓発
- 2 安全・安心なご利用者本位の施設経営（防災安全対策・事故防止）
- 3 内部通報・苦情案件に対しての迅速な対応

2 経営戦略室

経営戦略室は、各施設の将来を見据えた経営手法の変更と法人全体の中で高齢事業と保育・児童事業の制度設計が異なる部分の調整をしていきます。

高齢事業担当常務と保育・児童事業担当常務のもとに総合経営センター兼務職員を配置して、課題解決にあたっていきます。

高齢事業では、施設建築から20年以上経過しており、横須賀老人ホーム外壁工事をはじめとする営繕工事を引き続き中長期にわたり計画をしていきます。

また、設備投資だけでなく組織再編や新たな給与改定案を検討し、地域社会における安定的な絶え間のない福祉サービスの提供を目指していきます。

保育事業では、新型コロナウイルス感染症を予防するために、園生活での制限を抱えながら保育を行う状況が続いています。児童及び職員の健康・安全を重要視しながら、児童と保護者が安心して利用できる保育環境を維持し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底した上で、保育所としての役割と機能が十分に果たせるよう努めていきます。

また、本年度は運営する全ての保育園においてICTシステムの導入を進め、保育士の業務の省力化を行うことで、その時間を保育の準備・打ち合わせに充て、業務の効率化と保育の充実に繋げる環境づくりに取り組みます。

○ 重点事項

- 1 所有財産の活用計画の作成
- 2 組織再編成に伴う事業のスムーズな移行
- 3 収支の進捗状況の管理及び職員数のコントロール

3 総合経営センター

総合経営センターは、当法人の評議員、役員等の法人業務、理事会、評議員会の運営、職員給与、経営管理での決算経理統括、企画・調整機能としての統括的事務を担っています。

各施設経営及び事業の実施にあたり、効率的な運営が図られるよう各施設等との総合調整を行い、コロナ禍においても、職員が安心して、安定した経営を維持できるよう、引き続き感染防止対策を進めて参ります。

また、社会福祉事業・公益事業・収益事業を展開する総合福祉サービス事業体として、多面的視野を持ちながら社会福祉制度の変革に柔軟に対応し、更なる法人の事業発展のために、総合経営計画（第4次）の着実な推進を図ります。

なお、課題である人材確保については、横浜市及び川崎市の支援事業による保育園の借上げ宿舎制度の継続活用と外国人労働者を含む幅広い層への職員確保に積極的に努めていきます。

○ 重点事項

- 1 経営に関する意識を向上させ、一層の安定した経営管理
- 2 総合経営計画（第4次）の着実な推進と本経営計画の進捗管理
- 3 会計監査人による監査への適切な対応、財務運営の適正確保

4 横須賀老人ホーム

建物設備の大規模な修繕・更新の費用が必要であるため、高齢者福祉総合施設の機能を活かした一体経営を推進し、毎年1億2,000万円以上の収支差額を実現します。感染症対策と経営戦略を両立させた『ウィズコロナ経営戦略』で経営リスクをコントロールします。収入においては特養の年間利用目標人数71,832人、利用率96%の確保や通所介護の営業日の拡大を実施します。支出においては適正な職員配置と計画的な予算執行を徹底していきます。

サービスの質に関しては各種委員会の充実、全員算定に向けた個別機能訓練の業務改善、LIFEを円滑に運用し、「ご利用者中心のケア」の実現を目指します。身体拘束廃止推進モデルとして役割を果たしながら専門性の向上と地域貢献に努めていきます。そして「リバイバルアクションプラン2019」を確実に検討・実行していき、やりがいのある職場作りを行います。「かなえる介護を横老で！」を合言葉に、今後も選ばれる施設を目指していきます。

○ 重点事項

- 1 高齢者総合福祉施設の機能を活かした一体経営の推進
地域包括支援センター→居宅介護支援→通所介護→短期入所→特別養護老人ホーム・診療所の経営・サービスの循環作り
- 2 ご利用者中心のケアの実現とリバイバルアクションプランの推進
サービスの質・専門性の向上と職員の働きがいのある職場作りの推進
- 3 伝統・信頼ある高齢者福祉総合施設としての地域社会への貢献
「誰も一人にさせないまち・横須賀」への貢献とKana・L・ブランドの発信

5 横須賀養護老人ホーム

高齢者福祉総合施設の機能を活かした一体経営を推進し、毎年1億2,000万円以上の収支差額に貢献するために、神奈川県唯一の視覚障害者専門養護老人ホームの役割を内外に周知します。訪問介護等への収益の内部循環を意識したサービス提供を行い、年間利用目標人数17,703人、利用率97%の確保を目指します。コロナ渦でのクラスターの経験を活かし、『ウィズコロナ経営戦略』で経営リスクをコントロールします。

サービス提供に関しては、外部サービス利用型特定施設の利点を活かし、住み慣れた施設で自立して生活継続できる環境づくりや併設特養との連携により、ご利用者の介護ステージにあった最適なサービスが受けられるよう、スムーズなサービス移行に努めます。また長期化する感染症対策のなかで、ご利用者や職員の希望や想いを叶える「かなえる介護を横老で！」の具体化を目指していきます。

○ 重点事項

- 1 高齢者総合福祉施設の機能を活かした一体経営の推進
行政・地域包括支援センター→養護老人ホーム・通所介護・訪問介護→特別養護老人ホーム・診療所の経営・サービスのサイクル
- 2 ご利用者や職員の希望をかなえる「かなえる介護を横老で！」の実現
盲養護老人ホームとしての専門性と自立支援の追求
- 3 神奈川県唯一の視覚障害者専門養護老人ホームとしての地域社会への貢献
必要な時に入所できる施設であるために、盲養護老人ホームの役割の内外への周知、行政措置担当課・利用者等が求める情報の提供・情報の更新や在宅生活困難者の緊急受入施設として役割を果たす

6 箱根老人ホーム

今年度の特養の年間利用目標人数は30,295人、利用率96%とします。
安定的な事業運営を継続するため、人材の流動化による職場環境の活性化とコスト削減に取り組み、新規開拓営業による待機利用者の確保、計画的な修繕等により収支管理の改善を図ります。

ご利用者の個性や希望を尊重した暮らしの実現にむけて、PDCAサイクルに基づく業務改善やケアマネジメントを実践し、職員同士の連携・協働によるチームケアの実践力向上を目指します。

また、中堅・リーダー職員の課題解決力を高めるために、原因を掘り下げて考える思考力や、改善に向けて周囲へ働きかける実行力を育成する仕組みづくりを構築します。

そして、コロナ禍における地域福祉活動を推進するため、関係機関等と連携して新しい形でのつながりを模索した取り組みを行います。

○ 重点事項

- 1 職員定数と収支の管理
- 2 チームケアの実践と課題解決力を高める人材育成
- 3 コロナ禍における地域福祉活動の推進

7 湘南老人ホーム

長期入所は、早期に医療につなげてリスクヘッジすることで、入院者数が増加することを踏まえて、年間利用目標人数53,611人、利用率96%とします。

当施設の地域性から、支援困難ケースが多いため、サテライト施設「ぷらっと」による相談機能（地域包括支援センター、居宅介護支援）を最大限に活用し、かつ、各事業（地域密着型通所介護、短期入所、特別養護老人ホーム）の特徴を活かし、「相談からお看取りまで」を念頭に、地域やご利用者のニーズに総合的・一体的に対応します。

また、「地域貢献が安定した経営につながる」を職員の共通認識とし、日単位の利用状況の把握に努めながら、入所ベッドや在宅サービス利用に空きを作らないサービス調整をします。

なお、「サステイナブル」な事業運営を実現するために、設備更新や建物修繕、備品更新を踏まえて、資金収支差額を生み出せる経営体質に変革します。そのためには、ご利用者の健康寿命の延伸につながる加算算定を促進し、支出のあり方についても必要な支出、不要な支出を見極め、適正執行を行います。

○ 重点事項

- 1 持続可能な事業運営のための、職員定数範囲内の職員数の維持及び予算の適正執行、並びに、資金収支差額を生み出せる経営体質への変革
- 2 「相談からお看取りまで」を念頭に置いた総合的・一体的な事業展開及び、ご利用者の健康寿命延伸とやすらぎのある心豊かな生活につながるサービスの充実
- 3 地域と共生するための創意工夫を凝らした地域貢献活動の推進（身体拘束廃止推進モデル施設の活動、ぷらっと地域交流センターの活動、訪問型移動支援サービス）

8 あしがら広域福祉センターひかりの里

令和4年度の特養の年間利用目標人数は17,850人、利用率は97%です。

これらの目標数値を達成するために、①退所後2週間以内に新規ご利用者の受け入れ、②入院から2週間以内の退院の2点を目標にしていきます。

コロナ渦で行事等ができない状況が続いていますが、ご利用者の生活が安心と潤いに満ちたものとなるように、①部署は違っても職員同士が協力したサービス提供、②「できない」ではなく「どのようにしたらできるのか」を考えて日々のケアの提供をします。面会の制限等でご心配をおかけしているご家族へもご利用者の様子をこまめに伝える工夫をしていきます。

また、地域社会の一員としてできることは何かを考え、町・自治会等と協力して災害時の役割等を明確にしていきます。

○ 重点事項

- 1 職員定数の中でご利用者の獲得や安定したサービスの提供のために部署を超えた職員間の協力等、目標人数・利用率を上回るための方策の検討
- 2 コロナ渦の面会制限等、ご利用者とご家族の気持ちに配慮した思いやりのある対応、職員一人ひとりのストレングスに注目したお互いを尊重できるチーム作り
- 3 地域住民の安全な暮らしのために施設の果たす役割の明確化と発信

9 高齢者グループホーム「輪」

年間利用目標人数6,241人、利用率95%とします。

地域密着型サービス事業所として、「心地よくわがままに暮らせる環境づくり」「認知症ケアの専門性を高める」「地域とともに歩むまちづくりへの貢献」を目標に、ご利用者一人ひとりの個性に寄り添い、「あたりまえの暮らし」の中でできていることを続けることで、自信と意欲につながる主体的な暮らしを支援していきます。

継続的な広報・啓発活動を行うことで、安定した利用率の確保と適正な職員配置の見直しを行い、収支の改善を図ります。

また、地域運営推進会議を含め「新しい日常生活」の様式を踏まえ、感染症予防を行いながら取り組み可能な地域との連携の方法を具体化していきます。

○ 重点事項

- 1 安定した利用率の確保と「職員の適正配置による人件費」「事務費」「事業費」の見直し等支出の検討を踏まえた収支の改善
- 2 ご利用者一人ひとりの今までの「あたりまえの暮らし」の継続を意識した支援
- 3 感染症予防の継続と「新しい日常生活」下での地域運営推進会議の再構築

10 介護付有料老人ホーム「結」

年間利用目標人数10,267人、利用率97%とします。

介護付有料老人ホーム「結」は、2015年5月に開所し7年目を迎えます。この間、地域における入所・入居系サービスの増加等もあり、介護付有料老人ホームを希望されるご利用者のニーズも変化してきています。

継続的な広報・啓発活動を行うことで、常に最新の空室情報を更新し、ご利用者の確保を行っていきます。適正な職員配置を行うことで収支状況の改善を目指します。

新型コロナウイルス等の感染症予防を引き続き行っていくことは必至と考えます。「新しい日常生活」下でも、ご利用者一人ひとりの「その人らしさ」を継続した生活の支援を行うとともに、新たなる形での地域・関係機関等との連携を具体化し、地域社会への貢献を行っていきます。

○ 重点事項

- 1 空室情報等を適時に更新し利用率の確保と職員の適正配置の見直しを含めた収支の改善
- 2 地域密着型サービスの特性を活かした、ご利用者一人ひとりの「その人らしさ」を継続した生活の支援
- 3 感染症予防の継続と「新しい日常生活」下での地域・関係機関等との連携の具体化

令和4年度 高齢施設利用者目標数

項目		単位	横須賀老人ホーム	横須賀養護老人ホーム	箱根老人ホーム	湘南老人ホーム
長期入所		人	71,832		30,295	53,611
	措置	人		17,703		
短期入所		人	5,339		547	2,737
通所介護		人	5,695			
	総合事業	件	1,283			
訪問介護	身体介助	時間		1,260		
	生活介助	時間		600		
	身体+生活	時間		140		
	総合事業Ⅰ	件		305		
	総合事業Ⅱ	件		77		
	総合事業Ⅲ	件		0		
居宅		件	1,440			816
	予防	件	84			0
包括	計画作成	件	2,242			1,776

項目		単位	湘南老人ホーム ぷらっと	高齢者グループホーム 「輪」	介護付有料老人ホーム 「結」	ひかりの里
長期入所		人		6,241	10,267	17,850
	措置	人				
短期入所		人				2,750
通所介護		人	2,317	2,402		4,400
	総合事業	件	0	12		60
訪問介護	身体介助	時間				1,200
	生活介助	時間				400
	身体+生活	時間				1,200
	総合事業Ⅰ	件				12
	総合事業Ⅱ	件				0
	総合事業Ⅲ	件				0
居宅		件				1,260
	予防	件				36
包括	計画作成	件				

1 1 児童養護施設すまいる

児童養護施設すまいるは、少人数制ユニットにより、要保護児童の自立に向けた支援を行い、全人的接触との交流を前提としています。

児童一人一人が施設での生活を地域社会の人々に見守られながら地域社会の一員として自己が成長していくことを通し、一般的な人間としての相互的な関係を基礎とした安全・安心な暮らしを営めるよう援助します。

小規模児童養護施設ひまわりは、児童の安全・安心を第一に、地域や関係機関との連携を図りながら施設運営を行っていきます。また新規小規模施設の開設に向け、調査開発を行っていきます。

あいせん児童家庭支援センターにおいては、地域の児童・家庭の福祉の向上のため、相談者からのニーズを把握したうえで、援助計画の実践のために、本体機能を活かし、他機関との連携を図ります。

○ 重点事項

- 1 児童の安全・安心な生活のために計画的な予算執行に努める
- 2 尊厳に基づく安全・安心な暮らしと人権擁護及び小規模グループによるきめ細やかな支援
- 3 アウトリーチ活動による地域ニーズの把握と取り組み、公益事業の計画的実践

12 あいせん保育園

安全・安心な保育運営が行えるようにしていくとともに、一人一人の子どもが心身ともに健康に育ち、あるがままの姿を受け止めてもらうことで自己肯定感が育まれるような関りをしていきます。そして子どもの発達を捉え気持ちに寄り添っていくことを大切にしたい保育をしていきます。

子育て支援においては園児の保護者には子どもの成長を共有し共に考えあえる関係を築いていき、地域の保護者にはコロナ禍の中でも出来る支援を模索し、引き続き地域の資源として活用されるよう努力していきます。また関連機関等と積極的に連携をとり必要な支援を行っていきけるようにしていきます。

職員間のコミュニケーションを大切にし、人材育成を丁寧に行う中で安定した職員体制を確保できるよう努力するとともに職員の質の向上を図っていきます。

○ 重点事項

- 1 職員の温かな心による子どもの主体性を高める保育の推進及び保護者との信頼関係の構築
- 2 地域ニーズに合った支援活動の実施と関係機関との連携の強化
- 3 チームワークによる楽しい保育の展開と働きがいを感じられる職場作りをめざし質の向上を図る

13 かのん町保育園

子ども達が心豊かに生きる力の基礎を育んでいけるように保育方針に基づき、職員の輪で温もりのある保育を実践していきます。その中で子どもを尊重し、心の声にしっかりと向き合い、職員一丸となって子どもの育ちを支えていきます。また、コロナ禍における人との関わり合いも保育の中で大切にしていき、子ども達が心身共にのびのびと過ごせる環境の保障に努めていきます。

そして、一人一人の保護者の状況を踏まえ、適切かつ温かな支援を行います。さらには、保育の取り組み内容や子どもの姿を見える化して積極的に発信し、丁寧伝えていきます。

また、地域との結びつきを大切にし、特に子育て中の保護者に向けての地域支援活動の充実から開かれた園運営を行います。

○ 重点事項

- 1 子どもの心を支え、豊かな実体験を通じた保育の実践
- 2 保護者が安心して就労・子育てができるように支援し、子どもの成長を共に喜び合える関係性の構築
- 3 地域関係機関との連携の強化と地域の子育てネットワークの発信

14 新川崎みらいのそら保育園

今年度も引き続き感染拡大防止対策を行いながら保育内容や行事等新しい取り組みを更に模索していきます。感染拡大防止対策と子どもの最善の利益を考え、子ども一人一人の健やかな成長を支援します。感染拡大防止対策については、市町村や法人の対応方針に沿いながら、利用者（子どもやその家族）、職員の健康と安全に努めるとともに、迅速かつ徹底した取り組みを講じていきます。

また、法人の保育方針の踏襲と、保育内容の振り返り、自己評価による改善を実施し、豊かで適正な保育の実践に努めます。そのために職員間の連携強化策、職員へのスーパービジョンや相談システムの整備等に努め、キャリアアップ研修の受講や、園内研修を通して、保育士のキャリアアップを図っていきます。

地域子育て支援の拠点として地域のニーズを模索し、地域支援事業を継続していきます。そして一時保育事業の充実を図ります。

○ 重点事項

- 1 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の徹底を図り、迅速な取り組みを行い安全・安心な保育運営の推進
- 2 法人保育方針の更なる理解を図り、保育の質の向上と豊かで適正な保育の実践
- 3 地域子育て支援の拠点として、地域支援事業、一時保育の推進を図る

15 みなみかせ保育園

子ども達が集団生活を送る上で、新型コロナウイルス感染症対策をし、安全確保に努めます。子どもの成長を保護者と共感し合える機会を再考し、信頼関係を積み重ねていきます。

職員のチームワークづくりとして、一人一人の個性や特技を活かしながら、子どもについての理解を深め、経営理念と保育目標に向かっていけるようにします。キャリアアップ等の役割を明確にし、サポート体制をつくります。また、チームとして同じ気持ちで保育に当たれるようOFF J T、O J T、研修や話し合いを重ね保育園づくりの一員として職員自身が達成感と自己肯定感に繋がるように努めます。

現在、加瀬地域の乳児待機児童が多く、近隣建設中マンションの総世帯数が約3,500世帯となるため、安心して子育てができる環境づくりに取り組みます。

○ 重点事項

- 1 職員間のチームワークづくり
- 2 安全・安心を基に子どもへの共通理解と地域子育て支援としての役割を果たす
- 3 定員外保育、一時保育等を行い、安心して子育てができる環境づくり

16 屏風ヶ浦保育園

子ども達が豊かな経験を重ねて、生き生きと意欲を持ち、自分らしくいられるよう、全職員で一人一人の子どもを理解し、あたたかく見守る保育を実践していきます。実践するための専門性の向上について、専門職としての知見を深めていくことを怠らず、資質の向上に努め、責任をもって子ども達を見ていきます。

職員が心身ともに余裕を持ち働くことが、子ども達を丁寧に見ていくことにつながるという共通認識のもと、職員が働きやすい環境を模索し、すべき業務の見直しや、人員の補充に努めます。

子育て支援に関しては、保育園の機能を活かすと共に、子育てを応援し、子育てをしている保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるように関わっていきます。

○ 重点事項

- 1 保育方針と保育目標に基づいた保育の理解と実践
- 2 職員が長く働き続けられる職場環境の整備
- 3 保育園を拠点とした子育て支援の推進

17 屏風ゆめの森保育園

新型コロナウイルスと共存しながらの園運営も3年目に入りました。休園を経験し身近にコロナを感じながら、未だ終わりの見えない状況が続いています。

今年度も衛生管理・健康管理に留意し、子ども達が主体的に遊び、生活できる安全・安心な保育園づくりの為、以下の重点事項に取り組んでいきます。

まず、心（頭）と体を十分に働かせ、主体的に遊びを創り出し、遊びこめる環境作りと共に異年齢交流も充実させ、他者への思いやりの心を育てます。

また、たった一つしかないみんなの地球を大切にしようとするSDGs意識の芽生えを育み、更なる「しなやかな心と体づくり」に取り組めます。

保育を直接見ていただく機会が減っている中、保育内容の理解に繋がる「保育の可視化」（伝え方）の工夫を継続し、信頼関係の維持向上に努めます。

更に、職員が同じ方向を目指し、仕事にやり甲斐・生き甲斐を感じられるよう、人と時間の有効活用をしながら「業務の省力化・効率化」を目指します。

○ 重点事項

- 1 しなやかな心と体を育む保育
- 2 保育内容の理解に繋がる保育の可視化、地域との連携
- 3 業務の省力化・効率化と職員間の情報共有・連携強化

18 みなみひの保育園

保育所保育指針及び事業団の保育方針に基づき、子どもの持つ力を信じ、生きる力を身に付ける保育を実践し、未来を創る子どもたちの主体性が育つ援助をしていくことを基本とした保育を目指します。

保育業務支援システムの導入に伴い機能を最大限に活用し、保護者の利便性の向上及び、より質の高い保育の提供が出来るよう努めます。また、保育士業務全般における業務の効率化を進め、業務負担の軽減を図ります。

さらに、役割分担の着実な実行により、個々のスキルアップ及び主体性の向上を目指すと共に、責任感ややりがいを感じることで、保育士の人材確保・定着に向けた取り組みの一つとなるよう環境整備に努めます。

地域社会への貢献では、待機児童対策の取り組みとして、地域保護者・行政との連携を強化し、園児の定員外や年度限定保育事業の積極的な活用等、柔軟な対応に努めて参ります。

○ 重点事項

- 1 システムの導入により保育の質の向上及び業務効率向上の推進
- 2 業務の役割分担制による着実な業務遂行により、職員のスキルアップ及び主体性の向上を目指す
- 3 待機児童対策の取り組みとして、行政との連携を強化し、定員外及び年度限定保育事業の拡充を図る

19 収益事業センター

収益事業センターは、自主自立後の社会福祉事業への補完的（みなし寄付金等）事業として位置づけ、平成24年度から事業所として設置しました。

社会福祉施設の経営が、公定価格である措置費や介護保険報酬の改定により時代ごとに厳しさが増すばかりであることから、当法人はもとより他社会福祉法人等の経営を強化するため、物品の共同購入による日常消耗品等、変動経費の抑制による経費削減の支援を行って参りました。

インターネットを利用したウィズカウネットの法人向け物品販売事業（共同購入会「らく楽クラブ設置」）は、収益事業として北は北海道から南は鹿児島県まで、国内約291施設の顧客を有し、着実な実績を積んできました。

今年度については、新型コロナウイルス感染症は変異を繰り返しながら感染拡大を続けておりますが、加入する事業所を運営する法人の他施設への勧誘を進め、顧客の購入利便性の向上に寄与します。また、改訂された「衛生・介護用品専用カタログ」を活用し、感染リスクの軽減、対策のためのお手伝いを行っていきます。

○ 重点事項

- 1 経営理念に基づく総合経営計画（第4次）の着実な履行
- 2 既存顧客へのフォローアップによる購入促進
- 3 物品の共同購入による日常消耗品等、変動経費の抑制による経費削減の支援